

# 長崎の林業

小曾根星堂書



長崎県立諫早農業高等学校 高性能林業機械研修

3

## 目次

- 林業普及指導員特集号 【令和6年度 林業普及指導員 活動報告】
  - (長崎指導区) 快適で儲かる林業・木材産業の実現に向けて…………… 2～3
  - (県北指導区) 県北地域の“持続可能な森林経営”の実現に向けて…………… 4～5
  - (長崎指導区 島原分区) 島原半島の森林整備における多様な事業体の連携と人材育成…………… 6～7
  - (五島指導区) ながさき農林業・農山村活性化計画の目標達成に向けた取組…………… 8～9
  - (対馬指導区) 持続可能な対馬の林業を目指して…………… 10～11
  - (普及員特集総括) 令和6年度林業普及指導員活動報告について…………… 12

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税を活用して発行しています。



ながさき森林環境税

2025 No.823

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ながさき森林環境税の取組についてはこちら→



森林ボランティアに興味のある方はこちら→



FREE

ご自由にお持ち下さい。  
「長崎の林業」はこちらからもご覧いただけます→





# 快適で儲かる林業・木材産業の実現に向けて (長崎指導区)



「長崎北高等学校での講義」

## はじめに

長崎指導区は、長崎半島、西彼杵半島及び県中央部の4市5町を活動地域としています。

本指導区には土地生産力が高く、本県優良林業地帯である多良・東彼地域や、年輪幅が狭く目の詰まった良質なヒノキが生産される西彼地域があります。

この森林資源を活用した持続的な森林経営のために、森林経営計画の作成支援と確実な森林整備の実行支援をはじめ、更なる低コスト化に向けた効率的な生産システムの確立、ICT等を活用した省力化技術の普及を実施しています。

このような背景から、本指導区では「第3期ながさき農林業・農山村活性化計画」に基づき、「林業経営体への支援」、「構想の策定と実現への支援」「人材の育成・確保」、「ICT等を活用する「スマート林業」の実践」を主体的に実施し、快適で儲かる林業・木材産業の実現に向けて取り組みました。

## 林業経営体への支援

林業経営体の労働力の確保・育成を図り、安定経営に必要な事業量を内外共に明示する産地計画の作成とその実行を支援しています。

当指導区では、5つの林業事業者が産地計画を策定しており、この計画をもとに事業量の確保、作業中の現場の進捗状況の確認を適宜行っています。今年度は搬出間伐面積923ha、素材生産量69.5千 $m^3$ を目標に支援を行いました。

また、地域の特色を活かした先進的な活動を展開して成果を上げている農林業者や、組織を表彰する「ながさき農林業大賞」において、産地計画を作成している「株式会社 長崎林業」が県知事賞を受賞しました。木材搬出作業道の技術者育成にも力を入れ、生産性向上に向けて取り組み、生産量を5年前から1.5倍に増加させるなど、魅力ある林業経営が他の模範となっていることなどが高く評価されました。



「長崎林業」知事賞受賞

## 構想の策定と実現への支援

「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」に基づき、国から譲与を受けた森林環境譲与税の適切な活用に向けて、市町の基本方針の策定に向けた支援を行いました。この策定にあたり、全国に先駆けて基本方針を作成している熊本県菊池市及び御船町に市町職員と共に訪れ、森林環境譲与税の用途の基本的な考え方、基本方針の施策の策定に関する意見交換を行い、方針の策定に役立てることができました。



「市町との意見交換会」

## 人材の育成・確保

森林整備を推進するには、担い手の確保・育成が重要ですが、離職者や高齢化による人材不足が問題となっています。

今年度は、担い手の確保のため、林業事業者が参加する森林の仕事ガイダンス等において、来場者に対し森林・林業の仕事内容を分かりやすく説明し、就業意欲の喚起、新規雇用就業者の確保支援を行いました。また管内にある2つの高等学校の生徒を対象とした森林教育を実施し、就業へのきっかけづくりに努めました。今後も林業を志す人材拡大のため学生への森林・林業教育に取り組んでまいります。



「諫早農業高等学校の森林教育」

また、人材の育成対策として、各作業現場へ労働生産性の向上指導、安全巡回指導を行い、1月には林業労働災害ゼロを目指し、労働安全講習や安全祈願祭への出席を行いました。



「安全作業の講義」

## ICT等を活用する「スマート林業」の実践

林業専門作業員の高齢化や人材不足が年々進行しており、森林施業の効率化・省力化が不可欠となっております。そのため、生産性や安全性の向上を目的として、ICT技術等の活用を推進しております。

今年度はドローンを導入した2つの事業体に、事業の進捗管理、造林補助金の測量簡素化を目指して、ドローン活用技術の情報提供を実施しました。また、材積検収アプリデータ(Log-co)の導入による検収作業の省略化やイヤマフとイヤホンが一体化したBluetooth無線機の導入など、新規林業事業者への指導や現場での情報共有による安全性と作業効率化に向けた支援を実施しました。

## 終わりに

人工林の森林資源の蓄積量は、年々増加している状況です。このような中で木材生産作業の省力化、林業の効率的な施業の推進を行い、森林・林業の活性化、所得向上を図るとともに、人材の育成と確保に努めてまいります。

今後も林業普及指導員として、林業事業者や市町関係団体と協力し、快適で儲かる林業・木材産業の実現に向けて取り組んでまいります。

(県央振興局 林業課)



普及員特集

# 県北地域の“持続可能な森林経営”の実現に向けて (県北指導区)

“持続可能な森林経営”の実現を目指して、普及班3名で県北指導区の普及指導活動を行いました。



高校生の林業機械操作実習

## はじめに

県北指導区は、佐世保市、平戸市、松浦市、佐々町、小値賀町の3市2町が普及活動の対象地域です。地域内の森林資源は、民有林面積が約40千ha、うち人工林割合は40%の約16千ha。人工林面積の95%にあたる約15千haは木材利用が可能な8齢級以上の林分であり本格的な利用期を迎えています。一方で、世代交代等による森林施業プランナー等の実務担当者の若返りや、林業専門作業員の高齢化が進んでる状況です。

戦後に造成された人工林を循環的に利用する“持続可能な森林経営”の実現のため、林業経営体の経営改善を支援するとともに、新たな人材の確保や定着を目指して活動しています。

こうした現状と課題を踏まえ、当指導区で令和6年度に取り組んだ普及指導活動の概要についてご報告します。

## 「林業を担う人材の育成・確保と安全性の高い林業労働環境の推進」

当指導区内には、2つの森林組合と民間林業事業者1社の3林業経営体があり、いずれも林業を担う人材の確保と育成が課題となっています。この課題解決へ向けて、管内市町を集めた検討会を4回開催して課題を掘り下げ、支援策等を検討しました。検討会では、「地域森林整備の推進の課題は何なのか」を林業経営体の実情を再確認しながら掘り下げ、今

後の市町の森林環境譲与税を活用した支援の具体案や実行体制、支援体制の整備など、県北地域として一体となった施策の展開方向を議論しました。



検討会の様子

その結果、施策を確実に実行するために県北地域独自の協議会を設立し、まずは林業担い手への支援、次のステップとして森林整備の拡大を図るという方向性を確認し、その実施に向けて検討を進めているところです。

**人材の育成（事務担当者）：**市町や森林組合を対象とした森林経営計画作成研修会や森林施業プラン作成研修会を開催し、各者の経験値やニーズに応じて森林関係実務を担う人材育成に取り組みました。



森林経営計画作成研修



**人材の育成（現場技術者）：**森林組合新人職員2名への林業基礎研修、フォレストワーカー3年生への森林作業道作設技術指導、フォレストリーダーへ森林管理目標の設定、仕様書の理解と現場指示方法等について説明を行いました。

また、長崎北部森林組合の現場作業班員と業務課職員を対象とした集約化研修の開催を支援しました。現場作業班員が集約化業務の実務等を知り、組織が一体となって「提案型集約化施業」に取り組む意識が高まる良い機会となりました。今後の森林整備事業の規模拡大が期待されます。



森林組合新人職員研修

**人材の確保：**各経営体におけるハローワーク等での求人手続きへの支援のほか、（一社）長崎県林業協会と（株）鶴田林業の協力のもと、管内2校の高校生を対象とした森林・林業に関する講義と林業機械操作実習を実施しました。受講生からは「初めて知る林業の仕事と林業機械に対してとても興味、関心を持ちました！」との声を多く聞きました。林業就業のきっかけになる事を期待します。



高校生の林業機械操作実習

また、今年度は山の日（8月11日）に合わせて企画された地元ケーブルテレビの番組に出演し、森林の大切さや森林の持つ多面的機能、森林整備の必要性などについて、広くPRして理解醸成を図りました。

こうした取組の積み重ねが新たな人材の確保に繋がることを期待します。



アクションに挑戦中

**安全性の高い林業労働環境の推進：**林業経営コンサルタントと協力して、各林業経営体における将来ビジョンの策定を支援しました。今後は策定された経営方針や行動計画等の実行に向けて支援していきます。

また、平戸市森林組合で導入されている林内通信システム「Soko-co-forest」の改良を支援しました。今後は他の林業経営体での活用に向けた普及に努め、安全性の高い林業労働環境を推進したいと考えています。



Soko-co-forest

## 最後に

「人材の確保と育成」は長い視点で取り組む重要な課題であり、今後とも課題を1つずつ解決し取組を進めていきます。

これからも、各林業経営体や関係団体、関係市町、地元関係者の皆様の協力をいただきながら、引き続き県北地域の“持続可能な森林経営”の実現に向けて取り組みます。

（県北振興局 銭坪、家島、楠葉）



林業って魅力ある仕事じゃん👍



普及員特集

# 島原半島の森林整備における多様な事業体の連携と人材育成 (長崎指導区 島原分区)

## はじめに

長崎指導区島原分区は、島原市、雲仙市、南島原市の3市を普及活動地域としています。管内の民有林の人工林面積は7,716haあり、雲仙森林組合が中心となり森林整備を実施しています。しかしここ数年、人手不足により計画的な森林整備が進まないという課題を抱えており、森林経営管理制度が開始されたものの、労働力には限りがあり積極的に進められないのが現状です。

そこで島原振興局では、多様な事業体と連携し、森林整備を進める取り組みを展開していますのでご紹介します。

## 森林整備と人材育成の核となる‘雲仙森林組合’

島原半島の林業を支える雲仙森林組合は、同組合を含む半島内の林業事業体の新たな担い手を育成するにあたって、これまで以上に安全を意識した教育体制の充実を図りたいという希望がありました。

そこで、3市の担い手対策協議会で協議した結果、森林環境譲与税で新規担い手の教育体制を整えることとなり、教育機関として、雲仙森林組合が委託を受け、「森の学校」を開校しました。長崎県森林組合連合会による伐倒のVR体験や、長崎南部森林組合から講師を招いた伐倒基礎訓練、雲仙森林組合職員が講師となった現地実習、振興局職員による座学など、盛りだくさんの内容を、3事業体の新規担い手計6人に対して14日



チェーンソーの目立て講習 @森の学校

間にわたり実施しました。

伐倒基礎訓練については、雲仙森林組合の現場職員代表者が、講師から伐倒練習機によるメソッドを学び、その他の現場職員も全員で訓練を見学・実践するなど、同組合内での安全意識と伐倒技術に対する向上心もこれまで以上に高まっています。



伐倒基礎訓練 @森の学校

雲仙森林組合の松本宗之助氏がこのたび定年退職されました。松本氏はS58に同組合に入り、プロセッサが導入された当初からオペレーターとして活躍され、H12年からは作業班長として班員をまとめながらフェラーバンチャーのオペレーターとして作業道を作設するなど、長きにわたり島原半島の森林整備の機械化にご尽力されました。この場をお借りして感謝を伝えたいと思います。

これからはよき相談役としてご指導お願いします！



伐木のVR体験 @森の学校



## 熟練の技 ‘森瀬林業’

森瀬林業は、代々鍋島林業 229ha の山林経営と保残木施業を技術面で支えており、優良大径木生産に関する熟練の技を保持する事業体です。また、労働力不足で悩みを抱える雲仙森林組合の計画を共同で実施しようと H29 に結成された企業体 (FJV-Forest Joint Venture-) の一員でもあります。今年度、FJV としては 4 年ぶりに搬出間伐約 8ha を実施し、森林組合との連携体制をとることができました。

その他、森の学校を通じた新人の育成や、将来ビジョンの作成を通じた労働環境の整備にも取り組みました。今後は、森瀬林業の技術と知識を継承できる体制を整えていくことを目標としています。



## 新たな参入 ‘南島原協業体’

南島原協業体は令和元年に林業を実施しようと結成された南島原市内の建設業や造園業等 8 社の集まりですが、これまで林業の実績はありませんでした。そこで、今回森の学校の受講生として、チェーンソー技術や間伐の知識を身に付け、南島原市の森林経営管理制度による保育間伐を実施するこ



ととしています。人材不足の中、新たな森林整備の担い手として活躍が期待されます。



## 美しい森林づくり ‘おのだ林業’

おのだ林業の斧田氏はもともと森林組合の現場職員でしたが、独立して自伐型林業（小規模長伐期多間伐施業）を実施しています。おのだ林業が手がけた森林は、地形をできるだけ崩さずに道を作りながら最小限の間伐材を搬出していることから、林地に負荷がかからない美しい森林に仕立てられています。その作業は通年ではないため、今年度林業労働力改善計画を作成し、認定事業体に認定され、今後は市の事業等に参入し、年間の事業を安定確保していくこととしています。



## 今後の取り組み

森林経営管理制度の開始により、現場の人手不足もさることながら、森林組合職員や、市職員の業務も多様化・多忙化しています。

森の学校による人材育成や事業体連携には引き続き取り組み、これまでの作業や制度の進め方を再度見直し、スマート化できる内容を検討し、半島全体の森林整備の最適化に取り組みたいです。

(島原振興局)



## 普及員特集

# ながさき農林業・農山村活性化計画の 目標達成に向けた取組 (五島指導区)

## はじめに

五島市と新上五島町を活動区域としている五島指導区では、ながさき農林業・農山村活性化計画の目標達成のため、“人材の育成・確保”、“ICT等を活用する「スマート林業」の実践”、“特用林産物への支援”等を中心に普及活動を行っています。

また、令和5年度から取り組んでいるバイオマス用材の島外出荷により、森林整備と素材生産量の増加、素材の販路拡大を目指しています。



写真1. 島外出荷状況

今年度は新上五島町から島根県境港港への島外出荷を行いました。これにより、これまで新上五島町で利用できていなかったC・D材が活用できるようになり、素材生産量の増加が期待されます。

## 人材の育成・確保

### 【課題】

五島指導区では、高齢化や若齢層の島からの流出が進んでおり、現状は、事業者が求人しても応募者がありません。また、管内の事業者が少ないことも課題です。

このため、島内高校生等への林業PRや事業者の就業説明会の参加支援、資格取得支援等の事業者育成の取組を行いました。

## 【成果】

今年、五島市と協力して五島市で初めてチェーンソーに係る伐木業務の特別教育を開催しました。この特別教育には市内の建設業・造園業者から14名の参加がありました。この特別教育は18時間(3日間)の講習が必要なたため、予定していたほどの参加者がありませんでしたが、参加者には非常に好評でした。

また、ノウハウが得られたため、今後、五島市では隔年で特別教育を開催する予定としています。

新上五島町では林業分野の地域おこし協力隊として活動していた方から、島内での林業事業者起業に関する相談がありました。

このため、雲仙市千々石町へ自伐型林業の視察研修を行い、新上五島町で目指す森林施業を再確認してもらいました。今後は、本業の大工との兼業型の自伐型林業の可能性を模索しています。

現在、目標とする森林整備のための技術研鑽と森林所有者へのPRを目的とした展示林設置のために、森林・山村多面的機能発揮対策交付金を活用して森林施業を実施しています。

令和7年度には、自伐型林業に賛同した地元林家と協力し、新たに林業事業者を結成する予定としています。



写真2. 自伐型林業の現地視察



## ICT等を活用する「スマート林業」の 実践

### 【課題】

限られた人員の中で効率的な作業を行うためには新技術の活用が不可欠です。

特に林業分野ではドローンの活用が進んでいますが、五島指導区内の事業者はドローンを所有していませんでした。



写真3. ドローン

### 【成果】

令和5年度から、普及員が協力して、積極的にドローンを活用し、空撮による現地の状況確認や、合成したオルソ画像による施業区域の確認等を行ってきました。それらの取り組みにより、ドローンは事業の効率化につながるとして、事業者が魅力の林業づくり隊育成事業を活用したドローンの導入を決めました。

現在、福江島で林産を行っている事業個所については、全てドローンで空撮を行っており、除地の確認や林況の把握を行っています。

事業者独自で空撮を行えるようになったことで、事業区域の事前調査や、森林整備の補助申請への利用だけでなく、進捗把握等も行えるようになります。

今後は、ドローンを飛行させるために必要な事務手続きの指導や操作技術の普及を行い、全員がドローンを飛ばせるようにしていきたいと思います。

その他、事務所毎で行っている日報管理のデータをクラウド管理して共有化し、進捗把握を簡単にするための取組等も検討します。

今後もスマート林業の実践に向けた取組を進めていくこととしています。



写真4. 椿優良母樹由来の苗木

## 特用林産物の支援

### 【課題】

長崎県は5年連続で椿油の生産量日本一となっており、その8割を五島地域で生産しています。

椿実は、年毎の豊凶の差が大きく、そのため、椿油の生産量が安定しないことが課題として挙げられます。

### 【成果】

課題である椿実の豊凶差を解消するため、過去に五島で選抜された椿の優良母樹に由来する苗木を増産することで生産性の高い椿林を育成していく取組を進めています。一昨年から五島市の鬼岳樹木園内にある椿の優良母樹から穂木を採取しており、現在、新上五島町の椿苗木生産施設で育苗中です。

また、新上五島町では、新たなつばき産業振興計画策定に向けた取組が進んでおり、椿産物を次のステップに引き上げるための取組を進めています。

今年は五島市で全国椿サミットも開催され、五島の椿も全国にむけてPRしました。

### 終わりに…

五島の林業は離島地域という条件に加え“人材の不足”、“素材の販路”等の様々な課題を抱えています。しかし、ながさき農林業・農山村活性化計画に掲げる若者から選ばれる魅力ある林業、快適で暮らしやすい五島の実現、森林所有者の所得向上を目指して、普及指導活動を行っていきます。

(五島振興局林務課 柳本・植木)



# 持続可能な対馬の林業を目指して (対馬指導区)

## はじめに

対馬指導区は対馬全島を普及活動地域としています。管内の木材生産量は、長崎県の木材生産量の4割以上を占め、認定林業事業者は15者と県内で最も活発な林業地の一つです。

また、国境の島である対馬には、原木しいたけ栽培やシカ被害対策といった地域特有の課題があります。

地域の特性に応じた普及指導を進めていくにあたり、令和6年度に対馬指導区で実施した取組のうち、4つの取組についてご紹介します。



間伐材を集積している土場

## 1 担い手対策の取組

対馬の人口は減少の一途をたどり、様々な産業において人材不足が問題となっています。林業もその一つで、林業専門作業員の高齢化、後継者不足が問題となり、担い手確保が課題となっています。そのため、地元の小・中学生に対するお仕事説明会や森林学習、他県で開催されたガイダンス等に参加し、林業の魅力を伝えることで、人材確保に努めました。



お仕事説明会

## 2 安全対策の取組

林業現場では他産業と比較して労働災害の発生が多いことから、安心して働くためにも安全性向上が求められています。安全に関する正しい知識・技術を普及させるため、各作業現場への安全巡回指導、作業班長に対する安全衛生会議の中での安全指導を実施しました。安全装備や禁止事項の徹底を行い、安全に作業を行うよう指導に取り組んでいます。



安全衛生会議

また、伐倒技術や安全性意識向上を目的に開催されている「ながさき伐木チャンピオンシップ」の出場に向けて、壱岐と合同で練習会を行いました。離島地域は、本土で開催される練習会への参加が難しいため、離島で練習会を行っています。練習会では、ルールの確認や正確性の確認等を行いました。本番では、見事壱岐からの出場者が団体賞で優勝する等、輝かしい成績を収められました。今後も安全に対する意識を持ち、作業に取り組んでほしいです。



伐木チャンピオンシップ合同練習会





国指定史跡 清水山城跡から望む厳原港

### 3 事業体支援の取組

対馬では産地計画、労働力確保の改善計画、森林経営計画等の各種林業経営体が立てている中期的な計画の策定を通して、経営方針や弱みを見える化しています。このようにして見える化された経営体ごとの特徴に合わせて、各種補助の提案や計画作成時の支援を行うよう取り組んできました。



林業経営体への説明

また対馬では、ニホンジカが生息しており、様々な森林被害が確認されています。立木の剥皮被害、植栽木の食害、下層植生の食害による土壌流出などにより、森林の公益的機能の低下や産業への被害が生じています。現在林業被害への有効な対策としては、防鹿ネットの設置があります。これを受け、対馬島内の林業者に向けて、防鹿ネットを効果的に張るための研修会を行い、正しい使い方やネットを張った後の点検・補修方法について普及しました。



鹿に勝つ！効果的にネットを張ろう研修

### 4 原木しいたけの取組

豊かな森林資源を活かして生産された対馬の原木しいたけは、長崎県の原木しいたけ生産量の98%を占めています。長崎県しいたけ振興対策協議会の一員として、春には長崎県乾しいたけ品評会の開催を支援する等、特用林産物による地域振興にも力を入れました。対馬から出品された乾しいたけは、全国の品評会でも入賞しています。



対馬原木しいたけ

対馬原木しいたけを広くPRするため、長崎市や福岡県で行われた「しいたけフェア」の支援も行いました。乾しいたけ需要の低迷や生産者の減少により消滅の危機に瀕している対馬原木しいたけの生産技術の継承に向けた取組を行っていきます。



対馬しいたけフェア

### 最後に

対馬の魅力を活かしつつ、持続可能な森林管理を目指すため、今後も地域住民や市、県、関係機関と協力しながら普及活動に取り組んでいきます。

(対馬振興局 林業課 堀口、江崎、松田)



普及員特集

# 令和6年度林業普及指導員活動報告について

今年度県林政課では、担い手の確保・育成の一環として、公式 SNS を開設しました。こちらでは、県内各地域における取組や関連情報を集め、厳選した写真や動画により、林業の魅力を発信しています。

始動の年となった今年度は、ながさき伐木チャンピオンシップ、高校生の森林学習・林業体験、林研グループのボランティア活動、シカ被害対策の研修会、特用林産物の催事、就業セミナーの様子、高性能林業機械の作業風景等、盛りだくさんの内容で掲載しています。(1月末時点 14件)

また、開催行事の事前告知もしているので、ぜひ投稿をチェックしてみてください。

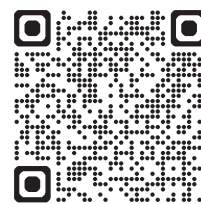
これらを通して、より多くの方へ林業の魅力や情報が届くように、そこから繋がり、さらに林業が選ばれる職業になるように、取り組んでいきます。次年度以降はさらに投稿内容を充実させていきますので、ぜひフォローのうえ、今後の投稿にご注目ください。

なお、掲載しているのは県内のごく一部の取組であり、今月号の各地域(指導区)の報告にあるように、普及員は地域の課題解決に向け様々なことに取り組んでいます。今後の普及員の活動にご期待ください。

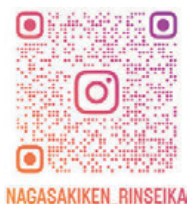
(林政課 普及指導班)



このアイコンが目印です。



Facebook



Instagram

長崎の林業 3月号 第823号  
 編集・発行 長崎県林政課  
 住所：長崎県長崎市尾上町3番1号  
 電話：095-895-2988  
 ファクシミリ：095-895-2596  
 メールアドレス：  
 s07090@pref.nagasaki.lg.jp



## 伊万里木材市況

### 【ヒノキ】

令和7年2月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/m <sup>3</sup> )	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16~18	直	24,400	普通	多い	多い
	16~18	小曲り	23,500	普通	多い	多い
	20~22	直	24,600	普通	多い	多い
	20~22	小曲り	23,300	普通	多い	多い
	24~28	直・小曲り	23,500 ~22,500	普通	多い	多い

### 【スギ】

令和7年2月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/m <sup>3</sup> )	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18~22	直	15,000	少ない	多い	多い
	16~22	小曲り	13,000	少ない	多い	多い
	24~28	直	15,000	少ない	多い	多い
	24~28	小曲り	13,000	少ない	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで